



企画展示あしあと

2009～2025

2009年度 星と森と絵本の家テーマ展示 見る・知る・感じる絵本展 「月とおつきさま」

- 月は、とても親しみのある天体です。
とおいむかしから人びとは、月の物語をつくり、月をともだちのようにくらしてきました。
また、みちかけする月を目じるしにこよみが作られ、さまざまな知恵や技術で、月はしらべられてきました。
そして月に行きたいというねがいは、ついにはかないました。
月をみて、空想するのは子どもだけではなく。
月を見て、そのなぞを知りたいのはおとなだけではなく。
いろいろな月をみて、いろいろなことを考えて、今夜は月をさがしてみませんか。
- 会期：2009年7月7日から2010年6月30日まで
- 展示監修
縣秀彦氏(国立天文台普及室長) 広松由希子氏(絵本研究家)

画像：「月とおつきさま」の展示風景



2010年度 星と森と絵本の家テーマ展示 見る・知る・感じる絵本展 「大きなちきゅう 小さなちきゅう」

- わたしたちのくらす地球はたくさんの生きものがすんでいる大きな星ですが、宇宙のなかではほんの小さな星なのです。いろいろな本を手にとって地球を見て、知って、感じてみませんか？
「まるい」「まわる」「水がある」「空気がある」「いのちがある」という地球の「天体としての特徴」と、その地球の上でのくらしを、約190冊の絵本を通じて伝えます。

- 会期：2010年7月7日から2011年6月30日まで

- 展示監修

縣秀彦氏(国立天文台普及室長) 広松由希子氏(絵本研究家)

画像：絵本展示室「大きな地球 小さな地球」展示風景



2011年度 星と森と絵本の家テーマ展示 見る・知る・感じる絵本展 「おひさま いっぱい」

- あたたかくて、まるくて、おおきなおひさま。
外あそびの子を一日じゅう見守るおひさま。
雨のおはなしの最後のページにかがやくおひさま。
絵本のなかでおひさまは、お天気をあらわし、時間をあらわし、気持ちをはらわしているようです。いちめん明るい光のさす庭や夕焼け雲は、姿はないけれどそこにいるおひさまを感じるときです。
- 会期：2011年7月7日から2012年6月30日まで
- 展示監修

縣秀彦氏(国立天文台普及室長) 広松由希子氏(絵本研究家)

画像：絵本展示室「おひさま いっぱい」 絵本展示コーナー



2012年度 星と森と絵本の家テーマ展示 見る・知る・感じる絵本展 「宇宙でいきてる」

- わたしたちははるかな昔から、夜空を見上げ、どこまでも続く星空にひきつけられてきました。
今では宇宙に行けるようになり、その謎は少しずつ分かってきましたが、それでも美しい星空を見つめる気持ちは変わりません。
今、ここにいる「わたし」と宇宙とのつながりを考えると、宇宙に開かれていくような、大きなものに包まれているような不思議な気持ちになります。

- 会期：2012年7月7日から2013年6月30日まで

- 展示監修

縣秀彦氏(国立天文台普及室長) 広松由希子氏(絵本研究家)

画像：絵本展示室「宇宙で いきてる」の展示風景



2013年度 星と森と絵本の家テーマ展示 見る・知る・感じる絵本展 「ほしと星座」

- 夜空をみあげて「この星空は、どこまでつづいているんだろう」とおもったことはありませんか？どこまでもつづいている、その星空が宇宙です。
人は何千年ものむかしから星をながめ、星の動きを生活に役立ててきました。また、星は国の未来を予言するものと考えられていました。人が生きていくために、星の動きはとても重要なものだったのです。星を観察し続けて、今では、とても遠くの星のことまで、わかってきました。この展示では、いろいろな姿で描かれた星の絵本を通じて、星の美しさ、星を見ることの楽しさ、星と人との結びつきを、見て、知って、感じてください。そして、今晚はぜひ星空をみあげてみてください。
- 会期：2013年7月7日から2014年6月30日まで
- 展示監修

縣秀彦氏(国立天文台普及室長) 広松由希子氏(絵本研究家)

画像：絵本展示室「ほしと星座」の展示風景



2014年度 星と森と絵本の家テーマ展示 見る・知る・感じる絵本展 「絵本と宇宙 ひろくて とおくて はてしない」

- 見ることも、さわることも、行くこともできない宇宙
 だったら、すきなようにかんがえてみていいんだよね
 ことばや絵から宇宙をいっぱい感じてみよう
- 会期：2014年7月7日から2015年6月29日まで
- 展示監修
 縣秀彦氏(国立天文台普及室長) 広松由希子氏(絵本研究家)



画像：絵本展示室「絵本と宇宙 ひろくて とおくて はてしない」の展示風景

2015年度 星と森と絵本の家テーマ展示 見る・知る・感じる絵本展 「どう うごく？ おちる ころがる」

- 重力は宇宙にみちている みえないちから。
いつでも どこでも あらゆるものに、はたらきます。
絵本といっしょに、ころがる球もたのしんでください。
- 会期：2015年7月7日から2016年6月30日まで
- 展示監修
縣秀彦氏(国立天文台普及室長) 広松由希子氏(絵本研究家)



画像：絵本展示室「どう うごく？ おちる ころがる」の展示風景

2016年度 星と森と絵本の家テーマ展示 見る・知る・感じる絵本展 「暦 かぞえるくらし」

- 暦は天体の動きをもとに決められています。

昔から人々は、月の形が変わっていくのを見て、日にちを数え、季節を知りました。

暦はわたしたちのくらしの目印となっています。「いちにち」、「いっしゅうかん」、「いちねんは12の月」

それぞれのコーナーを楽しみながら、くらしと天体の動きのつながりを感じてください。

- 会期：2016年7月7日から2017年6月30日まで
- 展示監修

広松由希子氏（絵本研究家） 縣秀彦氏(国立天文台普及室長)

画像：絵本展示室「暦 かぞえるくらし」の展示風景



2017年度 星と森と絵本の家テーマ展示 見る・知る・感じる絵本展 「もののもと ぼく・わたしのできるまで」

- わたしたちの周りには「もの」がたくさんあります。「もの」たちは、それぞれなにかからできているのでしょうか？材料をさがり、その材料がどこからやってきたのか、それは何でできているのか…「もののもと」をさがしに、宇宙のはじまりまでさかのぼっていきましょう。
- 会期：2017年7月7日から2018年6月30日まで
- 展示監修
広松由希子氏（絵本研究家）
縣秀彦氏(国立天文台天文情報センター普及室室長)
高畠規子氏（国立天文台天文情報センター広報普及員）

画像：絵本展示室「もののもと ぼく・わたしのできるまで」

の展示風景



2018年度 星と森と絵本の家テーマ展示 見る・知る・感じる絵本展 「月への旅」

- 空をふと見上げれば、そこには、大きなお月さま。月が大きくみえるのは、宇宙の中で、地球に一番近い天体だからです。いつも見ているけれど、不思議なことや知らないことがたくさんある「月」。昔も今も、人々はいろいろな方法で「月」のことを調べています。地上で、空で、そして、月で…そこにはどんな景色が広がっているのでしょうか。どれだけの発見が私たちが待っているのでしょうか。それでは行ってみましょう、知っているようで知らない「月の世界」へ。
- 会期：2018年7月7日から2019年6月30日まで
- 展示監修

広松由希子氏（絵本研究家）

縣秀彦氏(国立天文台天文情報センター普及室室長)

高畠規子氏（国立天文台天文情報センター広報普及員）



画像：絵本展示室「月への旅」の展示風景

2019年度 星と森と絵本の家テーマ展示 見る・知る・感じる絵本展 「宇宙とつながる」

- わたしたちはなぜ宇宙のことを知りたいと思うのでしょうか？人は生まれたときから、この世界を知ろうとします。あかちゃんは、まわりのものをさわって確かめます。少し大きくなると、自分の足であるき、探検をはじめます。やがてもっと遠くへでかけるようになり、世界をひろげていきます。そして世界は、そらへ、そのさきの宇宙へ……宇宙とわたしたちのあいだにあるもの。宇宙のはじまりから、いまここにつながっているもの。ひろいひろい宇宙の片隅から、わたしたちは宇宙のことをどれだけ知ることができるのでしょうか。さあ、いっしょに、いまここから探検にでかけましょう！
- 会期：2019年7月7日から2020年6月29日まで
- 展示監修

広松由希子氏（絵本研究家）

縣秀彦氏(国立天文台天文情報センター普及室室長)

高畠規子氏（国立天文台天文情報センター広報普及員）

画像：絵本展示室「宇宙とつながる」の展示風景



2020年度 星と森と絵本の家テーマ展示 見る・知る・感じる絵本展 「宇宙のいのち」

- 宇宙人っているのかな？
もしいたら、どんなすがたなのかな？ どんなくらしをしているのかな？
地球にすむわたしたちは、ほかの星の「いのち」について、想像をふくらませます。わたしたちが知っている、ただひとつの「いのち」の星－地球。
この地球上だけでも、いろいろなすがたかたちをした、たくさんのいきものがあります。
人がすめないような、暑いところ、寒いところ、地面の下や深い海など、きびしい環境でくらすいきものこともわかってきました。地球にいろいろないきものがいるように、この果てしない宇宙のどこかにも、まだ知らない「いのち」があるのかもしれない。
広い宇宙をしらべることができるようになったいま、その可能性は高まっています。さあこれから、わたしたちはどんな「いのち」と出会うのでしょうか。
- 会期：2020年7月7日から2021年6月30日まで
- 展示監修 広松由希子氏（絵本研究家）、梅本智文氏（国立天文台助教）

画像：絵本展示室「宇宙のいのち」の展示風景



2021年度 星と森と絵本の家テーマ展示 見る・知る・感じる絵本展 「宇宙のとちゅう いま・むかし・みらい」

- 2020年、わたしたちの生活は大きく変わりました。
いろいろなことがこれまで通りではないくらしのなかで、いつもとちがうことがたくさんおこりました。たとえば、時間が止まってしまったように感じたり、
なんにもしないうちに一年がすぎてしまったとおどろいたり、
おうちでの時間のすごしかたを考えたり、
時間についても考えたり感じる事がふえたように思います。時間ってなんでしょう？
わたしたちはふだん時計を使って、いまが何時か<時刻>を知ります。
<時間>は人によって長かったり、短かったりするときもあり、少しなぞなぞみたいなのところがあります。
さらに<時間>は目にも見えないし、さわることもできないし、空気みたいにすったりもできません。
でもわたしたちは<時間>を感じることができます。<時間>は138億年前の宇宙の誕生とともに始まったといわれています。
わたしたちが生まれる前からつづき、これからもつづいていく時間があり、
地球上のそれぞれの場所で、いま同じ時間を生きているわたしたちがいます。宇宙のなかの、
地球という星の、わたしたちが感じている時間のこと、いっしょに考えてみませんか？
- 会期：2021年7月7日から2022年6月30日まで
- 展示監修 広松由希子氏（絵本研究家）、梅本智文氏（国立天文台助教）

画像：絵本展示室「宇宙のとちゅう いま・むかし・みらい」の展示風景



2022年度 星と森と絵本の家テーマ展示 見る・知る・感じる絵本展 「みえないけどある？ここに宇宙に」

- ここにみえないものがあります。たとえば空気。わたしたちはいつも空気のなかでいて、呼吸をしています。空気はみえないし、つかめないけれど、なくてはならないものです。たとえば微生物。たくさんの種類が、わたしたちのみえないところではたらき、地球をいまのすがたにしています。微生物がいなくなったらなにがおこるのか、じつのところはわかっていません。目にみえないせかいにはなにがあるのでしょうか？みえないものは、想像力をかきたてます。なんだかよくわからないから、こわいと感じることもあります。でも人間は知りたがりです。さわる、きく、においをかぐ、からだのいろいろなところを使って、せかいを知ろうとします。みえないもの、未知のものについて考えをめぐらし、たしかめる方法をさがり、ついには新しい発見をします。宇宙にはまだみえていないものがたくさんあります。そしてみえないものもたくさんあります。夜空のとおいところで光る月や星をみて、それがいったいなんなのか、その向こうはどうなっているのかを知ろうとして人間は道具を作り、観測をはじめました。そしてわたしたちはいま、人間の目にはみえない電波をも使って、みえない宇宙をのぞいています。知りたがりのわたしたち、みえないせかいが自分たちとどう関係しているのか、ちょっとさぐってみませんか？
- 会期：2022年7月7日から2023年6月30日まで
- 展示監修 広松由希子氏（絵本研究家）、梅本智文氏（国立天文台普及室長）

画像：絵本展示室「みえないけどある？ここに宇宙に」
の展示風景



2023年度 星と森と絵本の家テーマ展示 見る・知る・感じる絵本展 「水のある星」

- まっくらな宇宙にうかぶ青い星。わたしたちがくらす地球です。約70年前に、人類ははじめて自分たちがくらす星のすがたを宇宙から見ました。観測に使う道具や技術が発達し、太陽系やもっと遠い星のことが調べられるようになると、地球がほかの星とどうちがうのかもわかってきました。海でおおわれ、生きものがうまれた星。宇宙の中で、わたしたちにとって地球がどうして特別なのか、見て、知って、感じてみませんか？
- 会期：2023年7月7日から2024年6月30日まで
- 展示監修
広松由希子氏（絵本研究家）
梅本智文氏（国立天文台普及室長）

画像：絵本展示室「水のある星」の展示風景



2024年度 星と森と絵本の家テーマ展示 見る・知る・感じる絵本展 「はじまり」

- 朝がきて、いちにちがはじまる。
きせつのはじまり、いのちのはじまり。
わたしたちのくらしのなかには、あたらしいはじまりがたくさんあります。でも、わたしたちがうまれたこの世界のはじまりは？
いのちはどこからやってきたの？考えていると「おわり」や「いま」も気になってきます。すべてのなぞが、いちどにはとけないとしても、考えつづけていると、はじまりについてのあたらしい発見や、これからを考えるヒントがあるかもしれません。
はじまりについて、いっしょに考えてみませんか？
- 会期：2024年7月7日から2025年6月30日まで
- 展示監修

広松由希子氏（絵本家）、梅本智文氏（国立天文台 普及室長）

岩下由美氏、湯澤真実氏（国立天文台 広報普及員）

画像：絵本展示室「はじまり」の展示風景



2025年度 星と森と絵本の家テーマ展示 見る・知る・感じる絵本展 「星と光」

- 夜になり、ふと空を見上げて、星を見つける。白っぽい光、だいたい色の光、目がなれてくると、小さな星もあちこちに見えてきます。空の向こう、遠い宇宙にはいったいくつの星があるのでしょうか？何年も何千年も宇宙を旅してわたしたちにとどく星の光。光はとても速いのですが、それでも時間がかかります。いまわたしたちが見ている星の光は、ずいぶん前に星を出発した光です。大昔から人々は星空を見ておはなしをつくり、想像をめぐらせてきました。季節や時間によって見え方のちがう星は、わたしたちの生活に役立つ光でした。いまは技術が進み、研究者たちは大きな望遠鏡や衛星でいろいろな種類の星の光を見えています。星の光は宇宙のなぞをとく手がかりなのです。いまも宇宙のどこかでひかっている星たち。今日の夜、星を見てみませんか？
- 会期：2025年7月7日から2026年6月22日まで
- 展示監修

絵本家 広松由希子氏

国立天文台 縣秀彦氏、梅本智文氏、岩下由美氏、湯澤真実氏

画像：絵本展示室「星と光」の展示風景



- 25年度「星と光」
- 24年度「はじまり」
- 23年度「水のある星」
- 22年度「みえないけどある？ここに宇宙に」
- 21年度「宇宙のとちゅう いま・むかし・みらい」
- 20年度「宇宙のいのち」
- 19年度「宇宙とつながる」
- 18年度「月への旅」
- 17年度「もののもと ぼく・わたしのできるまで」
- 16年度「暦 かぞえるくらし」
- 15年度「どう うごく？おちる ころがる」
- 14年度「絵本と宇宙 ひろくてとおくてはてしない」
- 13年度「ほしと星座」
- 12年度「宇宙でいきてる」
- 11年度「おひさま いっぱい」
- 10年度「おおきな地球 ちいさな地球」
- 09年度「月とおつきさま」

これまでの企画展示一覧